

海外の高校、大学へ留学する場合、入学に必要な予防接種が決められていることが多い。ワクチンの種類・回数が、国・学校によっても異なるので、確認が必要。健診も必要な場合がある。

所定の書式がある場合は各学校の資料と書式を持ってきてください。英文で記入します。所定の書式がない場合は当院の予防接種英文証明書に記入してお渡しします。

以下、一般的な内容です。

1 DPT/DT[三種・二種混合、ジフテリア:Diphtheria、百日咳: Pertussis、破傷風: Tetanus]

1期(乳幼児期)に相当する3~4回の接種と2期(11~12歳)の証明が必要。10年以内の追加接種が必要なため、2期から10年経っている場合は三種混合ワクチンで追加接種をする。海外では成人用三種混合ワクチン(Tdap)で接種しているため、輸入三種混合ワクチン(Tdap)で当院では対応している。

2 ポリオ、小児麻痺、急性灰白髄炎[Poliomyelitis、OPV(Sabin)、IPV(Salk)]

少なくとも3回の接種が必要。アメリカの州によっては4回の接種が必要なことがある。生ポリオ(OPV)接種している場合、日本では2回しか接種していない。現在日本では不活化ポリオ(IPV)しか手に入らないので、不活化ポリオで追加接種する。

3 麻疹(はしか)[Measles]・風疹[Rubella]・おたふくかぜ[Mumps]

海外ではMMR(麻疹・おたふくかぜ・風疹)として2回接種しているため、2回接種が必要。1回のみ接種、または罹患済みの時は抗体検査で抗体が陽性であることを証明することが必要。

4 水痘(水ぼうそう)[Varicella、Chickenpox]

海外では2回接種しているため、2回接種が必要。1回のみ接種、または罹患済みの時は抗体検査で抗体が陽性であることを証明することが必要。

5 ツベルクリン反応[PPD、Mantoux test]／BCG[結核]接種記録、クオンティフェロン・Tスポット

入学の1年以内(州によっては3ヶ月以内)のツベルクリン反応の結果証明が必要。アメリカでは陽性は結核と判断される可能性が高いため、BCG接種記録も記載する。ツベルクリン反応が陽性の場合胸部レントゲン撮影で結核を否定する。ツベルクリン反応の代わりに、血液検査(クオンティフェロン・Tスポット)で結核を否定することもできる。結果が出るのに1~2週間かかるので、早めの相談が必要。

6 胸部レントゲン[Chest X-ray]

ツベルクリン反応が陽性の場合胸部レントゲン撮影で結核を否定する。健診として必要な学校もある。

7 B型肝炎[Hepatitis type-B、Hep-B]

海外では多くの国が定期接種になっていて、入学時に必要とされる国も多い。。日本でも2016年10月から1歳未満を対象に定期接種となった。4週間間隔で2回接種し、6ヶ月後(3ヶ月~2年)で追加接種する。

8 A型肝炎[Hepatitis type-A、Hep-A]

食べ物から感染するため、アジア、アフリカ、中南米に留学する際には必要。アメリカでは定期接種となっている。2~4週間隔で2回接種し、6ヶ月後(3ヶ月~2年)に3回目を接種をする。※出発が2週間以内で国産のA型肝炎の2回目が接種できない方、海外で追加接種が必要な方、免疫を長く持たせたい方には、輸入A型肝炎がお勧め。1回接種後、6~12ヶ月後に2回目接種。2回の接種で20年間効果が持続する。

9 髄膜炎菌[Meningococcal Meningitis]

定期接種になっている国も多く、留学で寮生活をするときに接種を求められることが多い。2歳から接種可能。1回接種。

10 日本脳炎[Japanese Encephalitis]

幼少時に接種していることが多い。アジア地域に渡航する場合、最終接種から5年以上経っていれば1回追加接種をする。

11 その他(狂犬病[Rabies]・腸チフス[Typhoid Fever]・黄熱[Yellow Fever])

渡航先によって考慮する。

12 インフルエンザ[Influenza]

現地での流行時期を考えて、接種できる時期なら接種を勧める。